

# Architects' style

建築士 こおりやま

No.67 令和4年3月発行

## 三陸研修旅行

11月20日、21日の建物見学会につきまして

福島県建築士会郡山支部では、去る11月20日21日に、宮城県登米市及び南三陸町と石巻市方面へ、建築視察研修会に出掛けました。

最初に訪れたのは、伝統芸能伝承館（森舞台）。歴史が古い登米能のホームステージとして、建築家隈研吾氏の設計により平成8年にオープン。豊かな自然と天然スレートや音響や配色にも工夫を感じる建物となります。

次は登米市警察資料館。明治21年から昭和43年まで実際に使われていたギリシャ建築様式の建物内で、当時の制服や帯剣や紋章などが展示され、牢屋も再現されています。続いて玄昌石の館。東京駅の屋根材としても使用されているとよま玄昌石の産出から製品化に至るまでの過程を、写真パネルなどで見る事が出来ました。

その次は登米懐古館。こちら隈研吾氏の設計で、館内には仙台藩（伊達家）で使用されていた剣や鎧、刀袋や書簡などが展示され、屋外では天然石のスレートや小端立ても見られました。

水沢県庁記念館を横目に見ながら1日目の最後は教育資料館。明治21年に建てられた小学校を舞台に、館内では、2人児童机やマシンやオルガンなどが保管され、再現教室も常設されています。

2日目に向かった先は南三陸ワイナリーショップ。ここでは原料の葡萄の搾りや発酵と製品化までの醸造過程を詳しく見る事が出来ました。特に牡蠣の養殖棚にワインを沈め完熟させる独特の製造法も実施されているとのことです。

次に向かった先は石巻市の旧石巻ハリストス正教会。明治13年に建設された最も古い木造建築の教会で、1978年の地震と2011年の津波で大きな被害を受けましたが、その後、市民の声から展示館として復元され、漆喰塗

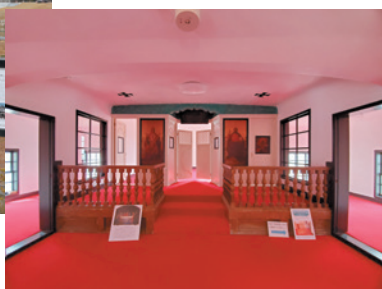




りの外壁や瓦屋根と十字架、集会室や急な階段、2階の聖所や升段や祭具室には、教会として使用されていたころの面影を感じます。

次に訪れたのは石ノ森萬画館。北上川の三角州にある飛行船の形をした3階建ての館内ではアニメや実写に登場する様々なキャラクターや書物が展示され、大人も子供も楽しめる空間となっています。

以上2日間の建築視察研修会のまとめとなります。





## 女性委員会の活動 【建材の吸水実験】経過観察の結果

—昨年10/10中央公民館の工作室での『試験体の浸水実験』終了後は、時間経過による質量と含水率のデータを得る為、ツボイさんに保管場所を提供いただき昨年9/4までの約一年間《経過観察》を行いました。引上げ後2か月間は週一回、それ以降は月一回のペースで計測。その間、昨年5/8中央公民館工作室で『経過観察中間報告会』と、試験体内部のカビの発生状況の観察を行いました。また、経過観察最終日にも合板を外し、カビの観察を行いました。その後、実験当日と経過観察のデータをまとめ、結果報告書として冊子を発行する事となりました。これも多くの皆様のご協力ご支援のおかげと、深く感謝申し上げます。



本誌前々号の続きとして《経過観察の結果》等を一部紹介します。詳しくは会報3月号と同送された『建材の吸水実験 結果報告書』をご覧ください。

質量については、引上げ後内部も乾燥し浸水前の質量近く戻るまでには、高性能グラスウールの構成①②③は7か月前後かかった。これらに対しボード状断熱材の構成④⑤は約14日間、試験体⑥は約40日間かかった。試験体⑦については、浸水中は0.10~0.20kg増加したが、引上げ直後にほぼ浸水前の質量に戻った。



含水率については、試験体①②は引上げ後約40日間、試験体③④⑤は引上げ後約14日間で大きく減少した。試験体⑥は約40日間かかり含水率が減少したことから、発泡ウレタン自体は吸水しにくいですが密着する石膏ボードが乾燥に時間を要する事がわかった。

カビの観察については、昨年5月の中間報告会時点で、試験体②に白色のカビが発生しており、経過観察最終日の9月では、グラスウール断熱材の①②③に緑色や白色のカビが目視確認できた。ボード状断熱材④⑤においても合板の節や間柱との接合部分が黒ずんでいた。

今回の実験結果によって、災害後の生活再建の住宅復旧補修についての講習会で、「表面が乾いていても内部は水が抜けきれていない為、濡れた位置ではなく、浸水ラインから概ね30cm程度上部から壁を剥がし、十分に乾燥させた上で建材を交換すること」と解説していた根拠がわかり、その裏付としてのデータを示せた事で被災時の復旧補修に係る目安を得る事ができた。また、建材資材に対する知識が深まったことで、今後、建築士として「防災・減災」を考えていく上での大きな自信につながった。

また今回、自分達で実験して自分の目で見て体験することによって、様々な気付きや発見を得る事ができた。この2年間、コロナ禍による制限もあり、どのように集まり、どう実験を行うのか…。悩みながら手探りでの活動でしたが、一緒に取り組める仲間の大切さと「一人ではできない事でも、仲間がいれば大きな事ができる」と実感することができました。私達の考えに耳を傾け、賛同し、見守り、支えて下さった皆様に、あらためて御礼申し上げます。ありがとうございました。

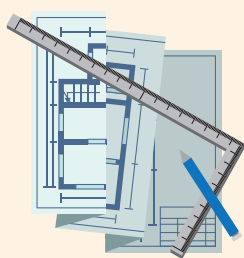




## おまかせ

私がインスパイアされた本 — 古川 弘 —

数ヶ月前のある雑誌記事の中にフレンチレストランのオーナーシェフが紹介されていました。「おまかせ」へのこだわりである。その方が絶対にいいクオリティー（質）が出せると信じ人一倍の努力と独創性（ひらめき）で14年連続三ツ星を獲得し現在、脂の乗り切った47歳のオーナーシェフのお話で技の素晴らしさ、集中力どれを取っても敵うわけではないが最近としては心に残った1ページでした。



私が独立した35歳頃だが気が付くと良くお任せ下さいと生意気な口をききながら間取りやデザインを作って施主に自慢げに話したものです。それと掛け合いとは大事なものでうまくいくと予算まで勝手に作り設計から施工管理までやってしまい自画自賛、そんなお施主さんにたまにお会いすると当時の話に花開き貴方は一歩も引か

なかったね、等と褒めたのか呆れていたかどうかは分からないが自分なりのこだわりは相当だったかもしれない。建築士取得から50年も経ってしまうと集中力、体力共、限界を感じる事が多くなってきた。

夢でいいからもう一度「おまかせ」と掛け合いをしたいものである。



### 編集後記

た…。

それはさておき、今年度も何とか年2回の広報誌発行を果たす事ができました。寄稿頂いた皆様には、毎度お忙しい合間を縫っての執筆、深く感謝申し上げます。

さて、今号は写真も文書も盛りだくさんの広報誌にする事ができました。

つい先日無事に正月を迎えられたと思ったら、あっという間に年度末になってしまっ

3年目に突入してもコロナ禍はおさまりそうにありませんが、建築士会はリアルでもオンラインでも割と多岐に渡る活動をしています。まだまだ伝えきれていないと感じつつも、今年の春も慌ただしく過ぎ去って行くのでした…。

### 福島県建築士会郡山支部

郡山市大町一丁目2番23号KIK'ビルW22(西2階)

TEL & FAX 935-2151

URL : <http://kenchikushi-koriyama.com/>

Mail : [info@kenchikushi-koriyama.com](mailto:info@kenchikushi-koriyama.com)